



社労士のつぶやき(101) 男性の育休

先日、改正育児・介護休業法に関するセミナーの講師をしました。もともと講師をする機会は少なく、しかも育児・介護となると「女性が中心で、女性の社労士先生がふさわしい」という私のイメージもあって専門外だと思っていましたが、それでも何度かこのテーマで講師を経験したことがあります。しかし、今回はかなり様相が異なっていました。何と、20 名ほどの参加者全員が男性。まさに「時代は変わった！」です。普段は数名の「中高年」としか仕事していない私にとって、こんなに多くの 20～30 代前半の男性と接する機会は滅多に無く、ついワクワクしてしまいましたが、皆さんとても熱心で、90 分の講義の後のミーティングもたっぷり 1 時間、意見や質問が絶えませんでした。

育児休業にかかる近年の大きな特徴は、まず両親が一緒の期間に育休を取得できること（昔はどちらか一方）、1 回キリでなく数回に分けて取得が可能（「産後パパ育休制度」など）、育休期間の延長（「パパママ育休プラス制度」で子の 1 歳 2 か月まで、または最大 2 歳まで）などがあります。しかも今年の 4 月から出生後育児休業給付金が創設され、政府は「育児休業を取得しても、最初の 4 週間は通常の給料の実質手取額 10 割相当を支給！」を謳っています。実際、厚労省の統計によると男性の育休取得率は 4 割を突破しています。もちろん大変喜ばしいことではありますが、女性の取得率 8 割の半分でしかなく、しかも取得期間は 1 か月未満が約 6 割、というのが実情です。育児休業における男女の格差はまだまだ、といったところでしょうか。

意見交流会では、職場のリーダーを務める方が「男性スタッフの一人が育休を取って、残った人数で仕事を回さなきゃいけない。それが趣味のツーリングで使うのがミエミエで、それでも休ませなきゃいけないのか？」という切実な意見？愚痴？をこぼしていました。いわゆる「なんちゃって育休」です。積水ハウスの男性社員へのアンケートでも、「何をしていいか分からない」の回答が 5 割に達しており、家事・育児の実践率も 23%に留まっていました。私は「両親が一緒に育休をとっても夫婦喧嘩のネタになるだけ」と一刀両断しましたが、セミナー後に同世代の女性スタッフに話すと「最近の若いお父さんはよくやってるわよ」とのことでした。耳痛いわ。確かに私たちの世代のお父さんは何もしなかったなあ。

社会保険労務士 高 龍 弘

燃料カードの価格表【2025 年 10 月分】

AMSカード ※共通利用可能

油 種	ENEOS・Shell・COSMO
レギュラー	158.1 円
ハイオク	168.1 円
軽 油	140.1 円

【価格は税抜】

ENEOSビジネスカード

油 種	ENEOS
レギュラー	159.0 円
ハイオク	169.0 円
軽 油	134.0 円

【価格は税抜】

全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行

油 種	COSMO	ENEOS	宇佐美
レギュラー	158.3～160.3 円	160.1～162.1 円	158.7～160.7 円
ハイオク	168.3～170.3 円	170.1～172.1 円	168.7～170.7 円
軽 油	133.3～135.3 円	137.6～139.6 円	135.8～137.8 円

【価格は税抜】

全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行

油 種	ENEOS ウイング	FLEX & TRUST カード (Shell)	宇佐美 U1	エネクスフリー
レギュラー	157.6～159.6 円	160.2～162.2 円	160.8～162.8 円	156.0～158.0 円
ハイオク	167.6～169.6 円	170.2～172.2 円	170.8～172.8 円	166.0～168.0 円
軽 油	131.5～133.5 円	137.7～139.7 円	133.0～135.0 円	133.0～135.0 円

【価格は税抜】